

# 学研労協 NEWS ニュース

つくろう！科学の輪第9回を開催しました

「展示だけではない博物館のお仕事

～見て聞いて触れる魚類標本の世界～」

講師：中江雅典さん（国立科学博物館 動物研究部）

学研労協とつくば市民大学が主催する「つくろう！科学の輪」では、つくばの研究機関で行われている様々な研究を一般の方向けに分かりやすくご紹介し、一般の方が研究機関をより身近に感じ、より親しんでいただくことを目的として、2012年からサイエンスカフェを開催しています。今回は、国立科学博物館（科博）動物研究部の中江雅典さんを講師にお招きし、「展示だけではない博物館のお仕事 ～見て聞いて触れる魚類標本の世界～」と題して6月6日に9回目のサイエンスカフェを開催しました。

一般にはあまり知られていませんが、博物館では展示以外にも多くの活動をしています。研究や標本の収集・保管も重要な活動です。どんなことを研究しているのか、なぜ標本を集めているのか、国立科学博物館で研究に携わっている中江さんにご紹介いただきました。

中江さんは、動物研究部の中でも特に魚類の形態学を専門とされています。メダカから1mを超える大型のマグロやマンボウまで様々な魚類を詳細に解剖し、進化の謎などを解明する研究を行っています。当日は、国立科学博物館の許可を得て、つくば市民大学に魚類の標本をたくさん持ち込んでいただき、お話を聞くだけでなく、実際に魚類標本に直接触れながら、専門家からその解説をお聞きできるという大変貴重な体験ができました。サイエンスカフェは研究者からの一方向的な話を聞くだけでなく、双方向のコミュニケーションが行えることが魅力です。

サイエンスカフェ前半では、国立科学博物館の立地と沿革、関東大震災で被災して建物とすべての展示物を失っても多くの方の努力で復活した歴史についてお話しいただき、現在の上野にある国立科学博物館に展示されている展示物の紹介をしていただきました。またつくばにある研究部で行われている様々な研究の内容についてご紹介いただき、博物館の仕事は単に展示をすることだけでなく、地球上に存在する（または存在した）できるだけ多くの標本を、人類の知的財産として長期間にわたって確実に保存し続けることが任務であることを、熱く語っていただきました。

また中休みを挟んで、カフェの後半では実際に中江さんが管理されている魚類標本に直接触れながら、それぞれの標本について解説していただきました。フグ、サメ、タツノオトシゴ、ウツボ、珍しい深海魚など、それぞれの標本の特徴やそれにまつわるエピソードなどを専門家からじっくりと伺うことができ、大変貴重な機会となりました。参加者から様々な質問が飛び出し、大盛況のうちにサイエンスカフェを終了しました。